

## 第3学年音楽科指導案

令和4年12月5日(月) 第5校時

荒川区立第三峡田小学校 第3学年1組 30名

授業者

### 研究主題

未来につながる子供の育成 ～SDGsの視点と関連させた授業づくり～

1 題材名 「いろいろな音のひびきをかんとろう」A表現(1)ア(2)イ



2 題材の目標

楽器の音色や旋律の特徴に着目し、曲や演奏のよさなどを感じ取りながら聴いたり、楽器の音色の特徴を生かして互いの音を聴き合いながら演奏したり、楽器の組み合わせ方や重ね方を工夫して音楽をつくったりする学習に進んで取り組む。

3 題材の評価規準

知識・技能(知・技)	思考・判断・表現(思・判・表)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<p>① 音色や音の重なり、旋律の特徴などと曲想との関わりに気づき、互いの楽器の音や副次的な旋律を聴いて音を合わせて演奏する技術を身に付けて演奏している。</p> <p>② 思いや意図に合った表現をするために必要な、音の重ね方や反復などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技術を身に付けて「まほうの音楽」をつくっている。</p>	<p>① 音色や旋律の特徴、音の重なり、拍と曲想との関わりについての知識や技術を得たり生かしたりしながら、パートの特徴を捉えて演奏の仕方や音量のバランスなどを工夫し、どのように演奏するかについて、思いや意図をもっている。</p> <p>② 音色やその重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽器の音の重ね方や反復の仕方などを工夫し、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>① 音色や旋律の特徴などと曲想との関わりに興味・関心をもち、音色の違いや音の重なりを感じ取る学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>② 楽器の音の特徴や音色を生かした即興的な表現に進んで取り組もうとしている。</p>

4 児童の実態と題材について

本題材は、音色を中心に旋律や音の重なり、音楽の仕組みとの関わりを取り上げながら、表現と鑑賞の学習を行う。音楽づくりの学習に当たっては、身近な打楽器の音色の違いを感じ取ったり、音の重ね方による響きの違いに気付いたりしながら、表現の仕方を工夫してきた学習経験を踏まえ、自分なりのイメージやアイディアを基に打楽器の音の響きやその組み合わせを試したり、それらの組み合わせ方や重ね方を工夫したりしながら、音楽の仕組みを生かした音楽づくりの学習を展開する。音や言葉によるコミュニケーションを用いて、自分の発想を友達と共有したり、友達の発想から自分の音楽を見直したりしながら、音楽づくりの発想を広げていく。前学年の2年生では「いろいろなながっきの音をさがそう」

で身近な打楽器の音色に注目をした。3年生ではオーケストラの金管楽器に注目し、音色の学習を深めていく。

本学級の多くの児童は表現、鑑賞、共に意欲的に学習に取り組むことができる。元気で「音楽が楽しい」と口にする子が多い。音楽づくりの本教材においても、多くの児童が友達とコミュニケーションを図りながら意欲的に取り組むことができると推測している。しかし、自分のつくった「まほうの音楽のもと」を基に、自分と友達の思いや感じ方を比較し、共通点を見付けたり、違う思いや感じ方があることに気づいたりすることができるかが不明瞭である。他者を尊重しながら協力し、音楽をつくりあげてほしい。

また、学校アンケートにおいて「話し合うことで考えが広まったり深まったりしている」と答えた児童は34パーセントであった。このことから、本教材の学習を通して他者と話し合い協力しながら音楽をつくる良さを実感させたい。

以上のことからSDGsの目標16「平和と公正をすべての人に」の視点を関連させながら、「未来につながる子」の育成を行っていく。

## 5 重視したいESDの視点との関連

ESDの視点	育てたい具体的な姿	関連評価
①批判的に考える力	・音楽づくりを通して自分と友達の思いや感じ方を比較し、共通点を見付けたり、違う思いや感じ方があったりすることに気付いている。	知②
②コミュニケーションを行う力	・自分のつくりたい音楽のイメージと、友達のつくりたい音楽のイメージを共有し、話し合っている。	態①
③他者と協力する態度	・使用する楽器や担当する楽器を話し合い、ひとつの音楽をつくっている。	思② 態②

これらの力・態度を高めることで、ESDの構成概念「多様性」「連携性」を身に付けさせたい。

## 6 本時における具体的な児童の姿

	YK	OS	HY
学びの状況	自分の意見を発表し、友達の意見も聞いて上手にまとめることができる。 音楽は得意で好んでいる。	自分の意見をもつことができるが、友達の意見を聞いてまとめることは難しい。 音楽は得意で好んでいる。	自分の意見をもち、友達と交流することに苦手意識がある。友達が投げかけてくれると、意見を伝えることができる。
教師の願い	友達の意見の良さに気づき、みんなの良さを引き出しながら音楽づくりをまとめてほしい。	友達の意見を聞き入れ、まとめられる力を培ってほしい。	自ら意見を述べ、友達の意見と比較したりしながら前向きに音楽づくりに取り組んでほしい。
手立て	特に話し合い活動の際に、本児の言動に着目をし、良い点を褒めたり認めたりする。	自分の意見を発表したり、友達の意見を聞き入れたりする様子を褒め、助言をする。	意見がもてたことを褒め、どのようにグループでまとめるのが良いか一緒に考える。

## 7 本題材の研究主題の視点にせまる手だて

### (1) 批判的に考える力

- ・自分のイメージする音楽を視覚化させるために、「まほうの音楽のもと」をつくるワークシートを用いる。
- ・自分のつくった「まほうの音楽のもと」と、友達がつくった「まほうの音楽のもと」を見合う時間を設ける。
- ・試しながら意図に沿ってつくることができるよう、楽器を鳴らすことができる場を設ける。

### (2) コミュニケーションを行う力

- ・グループでの創作中は話し合いをたくさん行う。

### (3) 他者と協力する態度

- ・友達と音楽をつくるためにどのように工夫をするか、話し合っ決めて促すことができるよう促す。
- ・試す時間や場所には限りがあることを伝え、あらかじめ楽器の音を想像し、協力して試すと良いと声を掛ける。

## 8 他教科等との関連

音楽科「いろいろな音のひびきをかんとろう」		
理科		
3年生 音のふしぎ		

## 9 指導計画

	○児童の主な学習活動	・予想される児童の反応	評価規準
第1時	○トランペットとホルンの音色の違いに関心をもつ。(曲名:「トランペットふきの休日」・「アレグロ」)	・金管楽器!? ・かっこいい ・鳴らしてみたい	態① 知①
第2時 第3時 第4時 第5時	○拍にのり、音色に気を付けて主な旋律を演奏する。(曲名:パフ) ○拍にのり、主な旋律と副次的な旋律を演奏する。 ○重なり合う楽器の音の響きに気を付けて、合奏を工夫する。	・この曲知ってる ・意外と難しい ・いろいろな楽器の音が重なっている	知② 態② 思①
第6時	○歌詞が表す場面を思い浮かべながら歌う。(曲名:おかしなすきな まほう使い)	・面白い ・せりふがある ・「ワン ツー スリー」を言いたい	知①
第7時	○いろいろな楽器を鳴らして、「まほうの音楽のもと」をつくる。	・書いてみるのは難しい ・〇〇の楽器を使いたい	態②
第8時 (本時)	○音の組み合わせ方や重ね方を工夫して、「まほうの音楽」をつくる。	・楽しそう ・どのようにするのが良いかな ・〇〇の楽器を使うと良いかな	思②
第9時	○「まほうの音楽」を発表する。 ○可能なグループはナレーションやせりふを加える。	・すごい! ・自分たちとは違うけどこれも良い	知②

## 10 本時（8／9時間）

### （1）本時の目標

○自分でつくった「まほうの音楽のもと」を基に、グループで試しながら「まほうの音楽」をつくろう。

### （2）本時の展開

	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	□指導上の留意点☆評価規準【観点】
導入 (十分)	<p>○前時の活動を振り返り、本時の活動の見通しをもつ。 T:「前はどのようなことをしましたか。」 C:「『おかしな好きなまほう使い』を歌いました」 C:「『まほうの音楽のもと』を作りました。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">『まほうの音楽のもと』をつかって、グループで『まほうの音楽』をつくろう。</div> <p>T: グループで「まほうの音楽」をつくりましょう。つくり方の説明をします。</p>	<p>□前時までの学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>□本時の流れを説明する。</p>
展開 (三十分)	<p>○グループに分かれ、『まほうの音楽のもと』を用いて話し合う。 C:「どんなもとをつくった？」 C:「それはどんな風にならすの？」 C:「どんな楽器が合うかな」 C:「このもとは繰り返してみたいな。重ねてみたいな。」</p> <p>○グループでワークシートに記載でき、試したくなったら教師のところへ来る。教師が TPC でワークシートを撮影。 C:「できました」 C:「試しに行っても良いですか」</p> <p>○『まほうの音楽』に合う楽器を試す。 T:「時間や場所に限りががあるので、お試しができるのは各グループ2回までです。楽器の音を想像してから楽器のところに行って試すと良いですよ。」 C:「この楽器が合いそう。」 C:「この楽器と、この楽器を重ねてみようよ。」</p> <p>○楽器の音を出す順番、楽器の組み合わせ方や重ね方、強弱などを工夫しながら『まほうの音楽』をつくる。</p> <p>○つくった『まほうの音楽』を聴き合う。 T:「つくった『まほうの音楽』を発表してくれるグループはありますか。」</p>	<p>□前時につくった『まほうの音楽のもと』を持ち寄り、自分たちが表したい『まほうの音楽』に合う音の組み合わせを考えるようにする。</p> <p>□教科書 P57 の例を参考にして、『まほうの音楽のもと』を反復したり、重ねたりすると良いことを確認する。</p> <p>(行動観察, ワークシート, 演奏聴取)【思②】</p> <p>□自分たちのつくった音楽と比べながら聴くようにする。</p>
終末 (五分)	<p>○本時の学習を振り返る。 T:『まほうの音楽』をつくってみてどうでしたか。 C:「友達とつなげて楽しかったです。」 C:「良い音楽ができたけど少し難しかったです。」 T:「次回は仕上げを行って発表をしましょう」</p>	<p>□次時の見通しをもたせる。</p>